

◎今週の御言葉「信徒による証しと賛美」(103篇 1節～5節)
「わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。」(103:1)

◎讚美歌略解 「輝く日を仰ぐとき」 0 STORE GOD (『新聖歌』21番, 『讚美歌第二編』161番, 『讚美歌21』226番)

神の創造のわざへの感謝をうたった賛美歌です。

作詞者カルル・ボーベリー Carl Gustav Boberg(1859-1940)は、スウェーデンで生まれました。船大工の息子だった彼は、数年間船員として、後に木工を学び故郷で木工を教えていましたが、19歳の時に回心を経験して伝道者となりました。

1890年から1916年まで週刊誌 *Sanningsvitnet* の編集者を務め、また1912年から31年まではスウェーデン国会の議員でもありました。雄弁な話し手として、また才能に恵まれた書き手として、彼は数冊の詩集を出版しました。

この歌詞は1885年に書かれました。白昼の雷鳴・稲光という嵐の後、太陽の輝きを見、梢でさえずる鳥の声を聞いた彼はひざをついて祈り、その後すぐにこの詩を書いたというエピソードがあります。またボーベリーがある会合から帰る途中、自然の美しさと夜のしじまに響く教会の鐘の響きにうたれてこの詩を書いたというエピソードも伝えられています。

原作は”0 STORE GOD” という9節の詩です。現行のスウェーデンの賛美歌集 *Den Svenska Psalmboken*(1986) では、歌詞の初出を *Okant ursprung*(1889) としているため、『讚美歌21』本体ではそれになりました。しかし、LBWの解説書は、この詩の初出を1886年3月13日付の *Monsternas Tidningen* としており、詳細は現在調査中です。

0 STORE GODはスウェーデン民謡です。ボーベリーはこの詩を作ってから数年後にVarmland地方を訪れ、会衆が自分の詩をこの旋律にのせて歌っているのを聞いて大変驚いたということです。これはこの賛美歌を、この歌詞の組み合わせで上記の *Sanningsvitnet*(1891) に発表しました。ただし、この詩には4分の3拍子の曲で、後に *Svenska Missionförbundets Sangbok*(1894) において現在のような4拍子になりました。

この賛美歌はドイツ語に訳され、さらに20年後にロシア語に訳されました。イギリス人宣教師スチュアート・ハイン Stuart W. K. Hine(1889-?) が西ウクライナでこれを聞き、英訳して発表しました。1939年、彼はイギリスの国内伝道にこの賛美歌を使い始め、英語圏に広がっていきました。…

後年、ビリー・グラハムの大伝道集会などで用いられ、1950年以降、アメリカで急速に有名になりました。日本でも中田羽後の訳で『聖歌』(1958) に発表され、さらに『讚美歌第二編』(1967) 161番に収録されました。多少の言葉の手直しで受け継がれています。

(『讚美歌21略解』、編者：日本基督教団讚美歌委員会、
発行：日本キリスト教団出版局) より引用)